

水痘ワクチンの接種について

◆水痘について◆

水痘・帯状疱疹ウイルスの感染で起こります。初感染では、発熱とともに全身に水疱性の発疹が出現し、多くの方は5日程で良くなりますが、ごくまれに入院や死亡する場合があります。また、水痘ウイルスは回復後も長く体内に持続感染する性質があり、なにかのきっかけで体の免疫機能が低下すると再活性化し、帯状疱疹となって繰り返し現れます。

◆ワクチンの効果と副反応◆

水痘ワクチンの免疫獲得率は高く、ワクチン接種を受けた人の90%以上の人が免疫を獲得できるといわれています。しかし、いつまで免疫が持続するかについては、獲得した免疫の状況やその後の周りでの流行の程度によって異なります。副反応としては、まれにワクチンの接種直後から翌日に発疹、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱などがみられることがあります。全身症状として、接種後1〜3週間ごろに発熱、発疹がみられることがありますが、通常、数日中に消失します。また、帯状疱疹になることがあります。ワクチン接種を受けない場合とくらべて、同じか低い頻度です。まれに、局所症状として発赤、腫脹、硬結などがみられることがあります。さらに稀な副反応については、診察の際に直接医師にお問い合わせください。

◆予防接種を受けるときの注意◆

- ①接種時に立って嘔吐する可能性がありますので、接種前30分は食べたり飲んだりするのは避けましょう。
- ②気温や来院前の運動により体温が37.5℃を越えた場合は、しばらく待って測りなおすことがあります。時間には余裕を持ってご来院ください。
- ③予防票は接種する医師への大切な情報です。よく読んで正確に記入してください。
- ④予防接種を受ける方がご婦人の場合、あらかじめ約1か月間は避妊しておきましょう。

◆予防接種を受けることができない人◆

- ①明らかに発熱がある人(37.5℃を超える人)
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③過去に水痘ワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人(他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いで下さい。)
- ④妊娠していることが明らかな人
- ⑤その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人

◆予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人◆

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人
- ②発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人
- ③風邪などのひきはじめと思われる人
- ④予防接種を受けたときに、2日以内に発熱のみられた人及び発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う異常がみられた人
- ⑤薬の投与又は食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- ⑥今までにけいれんを起こしたことがある人
- ⑦過去に本人や近親者で、検査によって免疫状態の異常を指摘されたことがある人
- ⑧水痘ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある人
- ⑨家族、遊び友達、クラスメイトのあいだに麻疹(はしか)、風しん、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの病気が流行しているときで、まだその病気にかかったことがない人
- ⑩妊娠の可能性のある人

◆予防接種を受けた後の注意◆

- ①接種後30分間は医療機関にいるなどして様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。また、ワクチン接種の副反応を正しく判断するために、接種後30分間は飲食(授乳)を控えてください。
- ②接種後2〜3週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ④接種当日は接種部位は清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。ただし、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ⑥接種後2か月間は妊娠しないように注意してください。